

大学生の持つ高齢者イメージとその影響要因

University students' perception of the elderly and its related factors

小嶋洋一¹⁾, 孫子涵¹⁾, 中寄大貴¹⁾, 劉華霏¹⁾,
弘津公子²⁾, 徳田和央²⁾, 長谷川真司²⁾, 吉村耕一²⁾

Yoichi Kojima¹⁾, Zihan Sun¹⁾, Daiki Nakazaki¹⁾, Huafei Liu¹⁾,
Kazuhiro Tokuda²⁾, Kimiko Hirotsu²⁾, Masashi Hasegawa²⁾, Koichi Yoshimura²⁾

- 1) 山口県立大学大学院健康福祉学研究科博士前期課程
- 2) 山口県立大学大学院健康福祉学研究科

- 1) Masters Program, Graduate School of Health and Welfare, Yamaguchi Prefectural University
- 2) Graduate School of Health and Welfare, Yamaguchi Prefectural University

要約

本研究では、大学生の高齢者イメージとその影響要因について明らかにするために、大学生を対象としてオンラインアンケートを実施し、得られた143件の回答を分析対象とした。学生の高齢者イメージの基となった高齢者は、「祖父母」>「地域の高齢者」≥「メディア等の高齢者」の順であった。祖父母との関わりでは「連絡頻度」、「喧嘩の経験」の2項目、地域の高齢者との関わりでは「楽しい活動経験」、「習い事や講習の経験」、「叱られた経験」の3項目、メディア等の高齢者との関わりでは「敬老内容を見た経験」、「介護内容を見た経験」の2項目が、それぞれ高齢者イメージとの関連要因として認められた。さらに、学生がより肯定的な高齢者イメージを形成するためには、身近な祖父母との関わり経験だけでなく、地域の高齢者あるいはメディア等の高齢者との関わり経験にも大切な役割があることが示唆された。

キーワード：高齢者イメージ 大学生 影響要因

Abstract

An online questionnaire was administered to 143 university students to clarify their perception of the elderly and its related factors. Consequently, the elderly that formed the basis of the students' perception regarding older adults were in the following order: "grandparents" > "the elderly in the community" ≥ "the elderly in various media." Furthermore, the students' perception of the older adults was related to "frequent contact with grandparents," "quarrel with grandparents," "pleasant activity with the elderly in the community," "training session offered by the elderly in the community," "experience of being scolded by the elderly in the community," "contents of various media for respect for the elderly," and "contents of various media for the care of the elderly." Our findings suggest that experiences with grandparents and older people in the community and various media may play an essential role in having a more positive perception of the elderly for students.

Key words : image of the elderly university students related factors

I はじめに

高齢化社会の進展の中で、高齢者に関する様々な問題が指摘されている。特に、少子化と急激な高齢者の増加にともない、高齢者の社会的孤立が深刻な社会問題となっており、その解決において世代間関係の観点からは重要である。若年者世代と高齢者世代の良好な関係の維持・構築が、高齢化社会におけるいくつかの課題解決につながる可能性は高い。

若者の老人に対するイメージの調査研究は半世紀以上にわたって数多くなされており、多くの研究者によって、若者が老人に対して「病気の、老衰した、弱い、役に立たない」などの否定的なステレオタイプを持っていることが報告されてきた（大谷ら1995）。日本の中学生や大学生に対する調査では、肯定的なイメージと否定的なイメージを併せ持っていることが報告されている（竹田ら2002, 高橋2013）。高齢者イメージの影響要因としては、「性別」、「祖父母との接触頻度」、「祖父母以外の老人との接触」、「老人との過去の経験」、「マスコミの影響」などがあり、多くの研究において高齢者との接触が重要であることが指摘されている（大谷ら1995）。大学生の介護体験における調査では、否定的なイメージを有する学生が少なからず存在するため、高齢者への理解を高める教育が必要であると報告されている（水沼ら2013）。

都市型社会の進展に伴い、従来の農村型社会は次第に消え、人と人の交流は希薄化してきている。その一つとして、若年者と高齢者が日常的に接する機会が減少し、若年者の持つ高齢者イメージに影響している可能性がある。そこで、現在の若年者の高齢者イメージと若年者の高齢者との関わり経験との関連を明らかにすることによって、若年者の持つ高齢者イメージをより肯定的な方向に向上するための一助とすることを着想した。

II 目的

本研究では、大学生のもつ高齢者イメージとその影響要因をアンケート調査によって明らかにすることを目的とした。

III 研究方法

1. 対象者と調査方法

山口県立大学の国際文化学部国際文化学科と文化創造学科、社会福祉学部社会福祉学科と看護栄養学部看護学科と栄養学科の1年生と2年生の男女合計628名を対象候補として、無記名のオンラインアンケート調

査を実施した。調査期間は2021年7月～9月であった。具体的には、各学部学科の対象学生にインフォームド・コンセントの内容とGoogle フォームを使ったオンラインアンケート調査のURLを記したメッセージをメール等により配信して依頼し、任意で得られた回答143件を分析対象とした。

2. 調査内容

① 基本属性：

性別、所属学科、学年、祖父母との居住関係について、選択肢の中から最も該当するものを1つ選択するよう求めた。また、年齢と高齢者をイメージする年齢について、数値を入力するよう求めた。

② 高齢化社会と自身の高齢化に関する意識：

「高齢化社会の様々な問題に関心がありますか」と「将来高齢者になることに不安がありますか」について、4段階の中から1つを選択するよう求めた。さらに、具体的な問題や不安について、選択肢の中から1つまたは複数選択するよう求めた。

③ 高齢者のイメージ：

「積極的-消極的」などの計16組の対立する二つのイメージについて、5段階の中から1つを選択するよう求めた（SD法）。

④ 高齢者イメージの基になった高齢者：

「あなたがもつ高齢者イメージの基になったのはどんな人ですか」について、「あなたの祖父母」、「地域の高齢者（身内を除く）」と「メディア等の中の高齢者」の中から最も該当するものを1つ選択するよう求めた。

⑤ 自身の祖父母との関わり経験：

自身の祖父母との関わり経験の頻度や内容などの計14個の質問について、選択肢の中から最も該当するものを1つ選択するよう求めた。

⑥ 地域の高齢者との関わり経験：

地域の高齢者（身内を除く）との関わり経験の頻度や内容などの計9個の質問について、選択肢の中から最も該当するものを1つ選択するよう求めた。

⑦ メディア等において印象に残った高齢者：

メディア等において印象に残った高齢者に関する計7個の質問について、選択肢の中から最も該当するものを1つ選択するよう求めた。

3. 分析方法

①～⑦の全ての質問について単純集計を行った。さらに、③高齢者のイメージとその他の質問との関連に

ついて、クロス集計を行った。なお、クロス集計の際には、祖父母との居住関係については、「同居」と「同居以外」に二分した。「高齢化社会の様々な問題に関心がありますか」と「将来高齢者になることに不安がありますか」については、「関心はある」と「関心がない」、「不安がある」と「不安はない」にそれぞれ二分した。計16組の高齢者のイメージについては、5段階の1と2、4と5をそれぞれ合算し、全体として三区分別とした。自身の祖父母との関わりの経験と地域の高齢者との関わりの経験では、頻度については「月に1回以上」と「月に1回未満」に二分し、各種の経験については「あった」と「なかった」に二分した。メディア等において印象に残った高齢者については「見た」と「見なかった」に二分した。関連性の検定にはカイ二乗 (χ^2) 検定を用いた。統計解析にはSPSS Statistics 24を用い、有意水準を5%とした。

4. 倫理的配慮

アンケート調査への回答は対象者の自由意思であり、回答しない場合でも不利益を受けないことを説明した。無記名のオンラインアンケート調査で、個人の特定につながる質問項目は含めていないことも説明した。本研究は、山口県立大学生命倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号2021-18)。また、アンケート調査のURLを含む依頼メッセージの学生への配信は学科長等の了承を得た上で行った。なお、本研究に関連して開示すべき利益相反はない。

IV 結果

1. 対象者の概要

調査対象者は、山口県立大学全学科の1年生と2年生の計628名であり、その内回答があった143件(回答率22.8%)を分析対象とした。性別は、「女性」125名87.4%、「男性」18名12.6%であった。所属学科の内訳は、「国際文化学科」54名37.7%、「看護学科」28名19.6%、「社会福祉学科」27名18.9%、「栄養学科」23名16.1%、「文化創造学科」11名7.7%であった。学年の内訳は、「1年生」89名62.2%、「2年生」54名37.8%であった。年齢は、「18歳」50名35.0%、「19歳」62名43.3%、「20歳」31名21.7%であった。回答者の実家と祖父母との居住関係は、「遠居(県外)」41名28.6%、「近居(市内)」37名25.9%、「同居」と「遠居(市外・県内)」は、それぞれ32名22.4%、「上記のどれでもない」1名0.7%であった。

「高齢者と言ったら、何歳以上をイメージしますか」については、「50歳」1名0.7%、「60歳以上65歳未満」29名20.3%、「65歳以上70歳未満」78名54.5%、「70歳以上75歳」35名24.5%であった。

「高齢化社会の様々な問題に関心がありますか」については、「とても関心がある」19名13.3%、「まあまあ関心がある」106名74.1%、「あまり関心はない」18名12.6%、「全く関心はない」0名0.0%であった。具体的に関心を持っている問題については、「社会保障制度(年金、医療・介護費など)の維持困難」113名79.0%と「高齢者を支える家族や関係者などの負担増加」104名72.7%が多かった。その他では、「高齢者が利用する施設(病院、介護施設など)の不足」61名42.7%、「地方消滅の危機と大都市の顕著な高齢化」52名36.4%、「労働力不足」47名32.9%、「経済成長の低下と財政の赤字」25名17.5%であった。

「将来高齢者になることに不安がありますか」については、「とても不安がある」31名21.7%、「まあまあ不安がある」92名64.3%、「あまり不安はない」17名11.9%、「全く不安はない」3名2.1%であった。具体的に持っている不安については、「要介護になること」106名74.1%と「病気になること」79名55.2%が多かった。その他では、「収入が減少すること」65名45.5%、「頼れる人がいなくなること」51名35.7%、「社会や時代の流れに取り残されること」26名18.2%、「自然災害などに弱いこと」15名10.5%であった。

2. 高齢者イメージ

「積極的-消極的」については、「消極的」の4と5を合わせて58名であり、「消極的」がやや多かった。「尊敬できる-尊敬できない」については、「尊敬できる」の1と2を合わせて100名であり、「尊敬できる」が多かった。「進歩的-保守的」については、「保守的」の4と5を合わせて102名であり、「保守的」が多かった。「自立的-依存的」については、「依存的」の4と5を合わせて69名であり、「依存的」が多かった。「忙しい-暇」については、「暇」の4と5を合わせて117名であり、「暇」が多かった。「強い-弱い」については、「弱い」の4と5を合わせて86名であり、「弱い」が多かった。「経験が多い-経験が少ない」については、「経験が多い」の1と2を合わせて132名であり、「経験が多い」が多かった。「従順-頑固」については、「頑固」の4と5を合わせて116名であり、「頑固」が多かった。「幸せ-不幸」については、「どちらともいえない」の3は75名

であり、「どちらともいえない」が多かった。「理性的-感情的」については、「感情的」の4と5を合わせて80名であり、「感情的」が多かった。「速い-遅い」については、「遅い」の4と5を合わせて117名であり、「遅い」が多かった。「優しい-厳しい」については、「優しい」の1と2を合わせて60名であり、「優しい」がやや多かった。「謙虚-傲慢」については、「どちらともいえない」の3は78名であり、「どちらともいえない」が多かった。「楽観的-悲観的」については、「どちらともいえない」の3は59名であり、「どちらともいえない」が多かった。「有能-無能」については、「有能」の1と2を合わせて66名、「どちらともいえない」の3は66名であり、「有能」と「どちらともいえない」が多かった。「開放的-閉鎖的」については、「閉鎖的」の4と5を合わせて57名であり、「閉鎖的」が多かった（表1）。

3.高齢者イメージの基になった高齢者とその高齢者との関わりの経験

「あなたがつ高齢者イメージの基になったのはどんな人ですか」については、「あなたの祖父母」87名60.8%、「地域の高齢者（身内を除く）」29名20.3%、「メディア等の中の高齢者」27名18.9%であり、自身の祖父母と回答した人が最も多かった。

自身の祖父母との関わりの経験の頻度では、「どのくらいの頻度で会っていましたか」と「どのくらいの頻度で連絡を取り合っていましたか」について、「週に1回以上」と「月に1回以上」がそれぞれ28.0%と28.7%、20.3%と36.4%であり、少なくとも月に1回以上の関わりの経験を半数以上が有していた。自身の祖父母との関わりの経験の内容に関する回答で特に多かったものとして、「お年玉やお小遣いをもらったこと」が「頻回にあった」88.1%と「たまにあった」11.2%、「誕生日や入学式などのお祝いをしてもらったこと」が「頻回にあった」81.1%と「たまにあった」17.5%、「遊園地、映画、買い物、食事などで遊

表1 高齢者イメージ

	1	2	3	4	5	
積極的	3 (2.1%)	35 (24.5%)	47 (32.9%)	55 (38.5%)	3 (2.1%)	消極的
尊敬できる	23 (16.1%)	77 (53.8%)	35 (24.5%)	6 (4.2%)	2 (1.4%)	尊敬できない
進歩的	1 (0.7%)	12 (8.4%)	28 (19.6%)	67 (46.9%)	35 (24.5%)	保守的
自立的	5 (3.5%)	30 (21.0%)	39 (27.3%)	57 (39.9%)	12 (8.4%)	依存的
忙しい	3 (2.1%)	5 (3.5%)	18 (12.6%)	83 (58.0%)	34 (23.8%)	暇だ
強い	4 (2.8%)	15 (10.5%)	38 (26.6%)	71 (49.7%)	15 (10.5%)	弱い
経験が多い	86 (60.1%)	46 (32.2%)	9 (6.3%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	経験が少ない
従順だ	1 (0.7%)	3 (2.1%)	23 (16.1%)	85 (59.4%)	31 (21.7%)	頑固だ
幸せだ	10 (7.0%)	53 (37.1%)	75 (52.4%)	4 (2.8%)	1 (0.7%)	不幸だ
理性的	2 (1.4%)	19 (13.3%)	42 (29.4%)	70 (49.0%)	10 (7.0%)	感情的
速い	3 (2.1%)	5 (3.5%)	18 (12.6%)	78 (54.5%)	39 (27.3%)	遅い
優しい	13 (9.1%)	47 (32.9%)	54 (37.7%)	25 (17.5%)	4 (2.8%)	厳しい
謙虚だ	0 (0.0%)	24 (16.8%)	78 (54.5%)	36 (25.2%)	5 (3.5%)	傲慢だ
楽観的	7 (4.9%)	40 (28.0%)	59 (41.2%)	33 (23.1%)	4 (2.8%)	悲観的
有能だ	12 (8.4%)	54 (37.8%)	66 (46.1%)	11 (7.7%)	0 (0.0%)	無能だ
開放的	5 (3.5%)	35 (24.5%)	46 (32.2%)	50 (34.9%)	7 (4.9%)	閉鎖的

んでもらったこと」が「頻回にあった」44.7%と「たまにあった」44.1%、「祖父母の世話やお手伝いをしたこと」が「頻回にあった」32.9%と「たまにあった」53.8%であった(表2)。

「地域の高齢者とどのくらいの頻度で関わっていましたか」では、「週に1回以上」と「月に1回以上」がそれぞれ12.6%と23.8%であり、少なくとも月に1回以上の関わりの経験を有していたのは約1/3であり、地域の高齢者との関わりが最も多かった時期については、「小学校」が69.2%と最も多く、次は「幼稚園・保育園」の9.8%、中学校の8.4%であった。地域の高齢者との関わりの経験の内容に関する回答で特に多かったものとして、「気軽に話しかけてくれたこと」が「頻回にあった」37.1%と「たまにあった」52.4%、「一緒に楽しく活動できたこと」が「頻回にあった」17.5%と「たまにあった」53.8%、「戦争体験や昔の暮らし振りの話などを聞く機会」が「頻回にあった」10.5%と「たまにあった」55.9%であった(表3)。

メディア等において印象に残った高齢者の中で「最

も印象に残っている方」の質問に対して、「実在する高齢者(ニュース、ドキュメンタリーなど)」が80.4%と最も多く、「架空の高齢者(ドラマ、アニメなど)」は8.4%と少なかった。メディア等において印象に残った高齢者の内容に関する回答で特に多かったものとして、「暮らし振りに関する内容」が「頻回に見た」16.8%と「たまに見た」72.7%、「介護に関する内容」が「頻回にあった」20.3%と「たまにあった」69.2%、「活躍する内容」が「頻回にあった」15.4%と「たまにあった」68.5%であった(表4)。

4. 「高齢者イメージ」と「高齢者イメージの基になった人」との関連

高齢者イメージの基になる人の違いが、高齢者イメージに及ぼす影響を検討するために、「あなたがもつ高齢者イメージの基になったのはどんな人ですか」の回答と計16組の高齢者イメージの回答との間でクロス集計を行った。その中で、「尊敬できる-尊敬できない」における「尊敬できる」の回答は、「あなたの祖父母」79.3%と「地域の高齢者(身内を除く)」

表2 自身の祖父母との関わりの経験

		頻回にあ った	たまにあ った	ほとん どな かった	全くな か った	合計
祖父母と一緒に旅行をしたことがありますか。	n %	12 (8.4)	80 (55.9)	36 (25.2)	15 (10.5)	143 (100.0)
遊園地、映画、買い物、食事などで、祖父母に遊んでもらったことがありますか。	n %	64 (44.7)	63 (44.1)	13 (9.1)	3 (2.1)	143 (100.0)
祖父母に童話や昔話を読んでもらったことがありますか。	n %	28 (19.5)	46 (32.2)	46 (32.2)	23 (16.1)	143 (100.0)
祖父母に勉強を教えてもらったことがありますか。	n %	13 (9.8)	40 (28.0)	44 (30.8)	46 (32.1)	143 (100.0)
祖父母に悩みを聞いてもらったことがありますか。	n %	15 (10.5)	48 (33.6)	50 (34.9)	30 (21.0)	143 (100.0)
祖父母に看病をしてもらったことがありますか。	n %	18 (12.6)	69 (48.2)	35 (24.5)	21 (14.7)	143 (100.0)
幼稚園や 保育園の送迎などの世話を祖父母にしてもらったことがありますか。	n %	39 (27.3)	48 (33.5)	20 (14.0)	36 (25.2)	143 (100.0)
誕生日や入学式などのお祝いを祖父母にしてもらったことがありますか。	n %	116 (81.1)	25 (17.5)	1 (0.7)	1 (0.7)	143 (100.0)
祖父母からお年玉やお小遣いをもらったことがありますか。	n %	126 (88.1)	16 (11.2)	0 (0.0)	1 (0.7)	143 (100.0)
祖父母の世話やお手伝いをしたことがありますか。	n %	47 (32.9)	77 (53.8)	16 (11.2)	3 (2.1)	143 (100.0)
祖父母と一緒に地域の活動に参加したことがありますか。	n %	16 (11.2)	41 (28.7)	44 (30.7)	42 (29.4)	143 (100.0)
祖父母と喧嘩したことがありますか。	n %	9 (6.3)	26 (18.2)	33 (23.1)	75 (52.4)	143 (100.0)

表3 地域の高齢者との関わりの経験

		頻回にあ った	たまにあ った	ほとんど なかった	全くなか った	合計
地域の高齢者と一緒に楽しく活動できた ことがありますか。	n %	25 (17.5)	77 (53.8)	32 (22.4)	9 (6.3)	143 (100.0)
地域の高齢者が、あなたに気軽に話しか けてくれたことはありましたか。	n %	53 (37.1)	75 (52.4)	13 (9.1)	2 (1.4)	143 (100.0)
困っていた時に地域の高齢者に手伝っ てもらったり、声をかけてもらったこと がありますか。	n %	21 (14.7)	62 (43.3)	44 (30.8)	16 (11.2)	143 (100.0)
地域の高齢者から叱られたことはありま すか。	n %	0 (0.0)	22 (15.4)	62 (43.3)	59 (41.3)	143 (100.0)
地域の高齢者から文化的な習い事や講習 を受ける機会がありましたか。	n %	14 (9.8)	71 (49.6)	42 (29.4)	16 (11.2)	143 (100.0)
地域の高齢者から戦争体験や昔の暮らし 振りの話などを聞く機会がありましたか。	n %	15 (10.5)	80 (55.9)	27 (18.9)	21 (14.7)	143 (100.0)
地域の高齢者の看護・介護を実際に見学・ 体験したことがありますか。	n %	6 (4.2)	45 (31.5)	48 (33.5)	44 (30.8)	143 (100.0)

表4 メディア等の高齢者との関わりの経験

		頻回にあ った	たまにあ った	ほとんど なかった	全くなか った	合計
メディア等で高齢者が活躍する内容を見 たことがありますか。	n %	22 (15.4)	98 (68.5)	20 (14.0)	3 (2.1)	143 (100.0)
メディア等で高齢者の暮らし振りに関す る内容を見たことがありますか。	n %	24 (16.8)	104 (72.7)	12 (8.4)	3 (2.1)	143 (100.0)
メディア等で高齢者の介護に関する内容 を見たことがありますか。	n %	29 (20.3)	99 (69.2)	12 (8.4)	3 (2.1)	143 (100.0)
メディア等で高齢者虐待に関する内容を 見たことがありますか。	n %	8 (5.6)	96 (67.1)	31 (21.7)	8 (5.6)	143 (100.0)
メディア等で高齢者犯罪に関する内容を 見たことがありますか。	n %	15 (14.4)	57 (54.8)	29 (27.9)	3 (2.9)	143 (100.0)
メディア等で敬老に関する番組や内容を 見たことがありますか。	n %	12 (8.4)	80 (55.9)	45 (31.5)	6 (4.2)	143 (100.0)

72.4%に対して、「メディア等の中の高齢者」37.0%であり、自身の祖父母または地域の高齢者が、高齢者イメージの基になった学生では、「尊敬できる」の高齢者イメージが大半であった ($p < 0.01$ 、表5)。「有能-無能」における「有能」の回答は、「あなたの祖父母」52.9%に対して「地域の高齢者(身内を除く)」37.9%と「メディア等の中の高齢者」33.3%であり、自身の祖父母が高齢者イメージの基になった学生では、「有能」の高齢者イメージが大半であった ($p < 0.05$ 、表6)。

5. 「高齢者イメージ」と「祖父母との関わり」との関連

自身の祖父母との関わりの経験が高齢者イメージに

及ぼす影響を検討するために、計14個の自身の祖父母との関わりの経験の頻度や内容に関する質問の回答と計16組の高齢者イメージの回答との間でクロス集計を行った。その中で、「尊敬できる-尊敬できない」における「尊敬できる」の回答は、「祖父母と喧嘩したことがあった」57.1%に比べて「祖父母と喧嘩したことがなかった」74.1%であり、自身の祖父母との喧嘩の経験のない学生では、喧嘩の経験を有する学生に比べて、「尊敬できる」の高齢者イメージが多かった ($p < 0.05$ 、表7)。「幸せ-不幸」における「幸せ」の回答は、「祖父母と喧嘩したことがあった」25.7%に対して「祖父母と喧嘩したことがなかった」50.0%であり、自身の祖父母との喧嘩の経験のない学生では、喧嘩の経験を有する学生に比べて、「幸せ」の高齢者

表5 高齢者の基になった人とイメージ「尊敬できる－尊敬できない」の関連

			尊敬できる	どちらでもない	尊敬できない	合計	p 値
あなたがもつ高齢者イメージの基になったのは、どんな人ですか。	あなたの祖父母	n %	69 79.3%	14 16.1%	4 4.6%	87 100%	0.001
	メディア等の中の高齢者	n %	10 37.0%	14 51.9%	3 11.1%	27 100%	
	地域の高齢者(身内を除く)	n %	21 72.4%	7 24.1%	1 3.4%	29 100%	
	合計	n %	100 69.9%	35 24.5%	8 5.6%	143 100%	

表6 高齢者イメージの基になった人とイメージ「有能－無能」の関連

			有能	どちらでもない	無能	合計	p 値
あなたがもつ高齢者イメージの基になったのは、どんな人ですか。	あなたの祖父母	n %	46 (52.9)	39 (44.8)	2 (2.3)	87 (100.0)	0.027
	メディア等の中の高齢者	n %	9 (33.3)	14 (51.9)	4 (14.8)	27 (100.0)	
	地域の高齢者(身内を除く)	n %	11 (37.9)	13 (44.8)	5 (17.2)	29 (100.0)	
	合計	n %	66 (46.2)	66 (46.2)	11 (7.7)	143 (100.0)	

表7 祖父母と喧嘩した経験とイメージ「尊敬できる－尊敬できない」の関連

			尊敬できる	どちらでもない	尊敬できない	合計	p 値
祖父母と喧嘩したことがありますか。	あった	n %	20 (57.1)	10 (28.6)	5 (14.3)	35 (100.0)	0.022
	なかった	n %	80 (74.1)	25 (23.1)	3 (2.8)	108 (100.0)	
	合計	n %	100 (69.9)	35 (24.5)	8 (5.6)	143 (100.0)	

イメージが多かった ($p < 0.05$ 、表8)。また、「有能－無能」における「どちらでもない」の回答は、祖父母との連絡頻度が「月1回以上」38.3%に対して「月1回未満」56.5%であり、祖父母との連絡頻度が少なかった学生では、頻度の多かった学生に比べて、「有能」または「無能」の極端な高齢者イメージは少なく、「どちらでもない」のイメージが多かった ($p < 0.01$ 、表9)。

6. 「高齢者イメージ」と「地域の高齢者との関わり」との関連

地域の高齢者との関わりの経験が高齢者イメージに及ぼす影響を検討するために、計9個の地域の高齢者(身内を除く)との関わりの経験の頻度や内容に関す

る質問の回答と計16組の高齢者イメージの回答との間でクロス集計を行った。その中で、「経験が多い－経験が少ない」における「経験が多い」の回答は、「地域の高齢者から叱られたことがあった」77.3%に比べて「地域の高齢者から叱られたことがなかった」95.0%であり、地域の高齢者から叱られた経験のない学生では、叱られた経験を有する学生に比べて、「経験が多い」の高齢者イメージがやや多かった ($p < 0.01$ 、表10)。同じく「経験が多い－経験が少ない」における「経験が多い」の回答は、「地域の高齢者と一緒に楽しく活動できたことがあった」95.1%に対して「地域の高齢者と一緒に楽しく活動できなかった」85.4%であり、地域の高齢者と一緒に楽しく活動できた経験を有する学生では、楽しく活動できた

表8 祖父母と喧嘩した経験とイメージ「幸せ－不幸」の関連

			幸せ	どちらでもない	不幸	合計	p 値
祖父母と喧嘩したことがありますか。	あった	n %	9 (25.7)	25 (71.4)	1 (2.9)	35 (100.0)	0.034
	なかった	n %	54 (50.0)	50 (46.3)	4 (3.7)	108 (100.0)	
	合計	n %	63 (44.1)	75 (52.4)	5 (3.5)	143 (100.0)	

表9 祖父母との連絡頻度とイメージ「有能－無能」の関連

			有能	どちらでもない	無能	合計	p 値
祖父母とどのくらいの頻度で連絡を取り合っていましたか。	月1回以上	n %	40 (49.9)	31 (38.3)	10 (12.3)	81 (100.0)	0.002
	月1回未満	n %	26 (41.9)	35 (56.5)	1 (1.6)	62 (100.0)	
	合計	n %	66 (46.3)	66 (46.2)	11 (7.7)	143 (100.0)	

表10 地域の高齢者から叱られた経験とイメージ「経験が多い－少ない」の関連

			経験が多い	どちらでもない	経験が少ない	合計	p 値
地域の高齢者から叱られたことはありますか。	あった	n %	17 (77.3)	3 (13.6)	2 (9.1)	22 (100.0)	0.001
	なかった	n %	115 (95.0)	6 (5.0)	0 (0.0)	121 (100.0)	
	合計	n %	132 (92.3)	9 (6.3)	2 (1.4)	143 (100.0)	

経験のない学生に比べて、「経験が多い」の高齢者イメージがやや多かった ($p < 0.05$ 、表11)。また、「有能－無能」における「有能」の回答は、「地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受ける機会があった」55.3%に対して「地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受ける機会がなかった」32.8%であり、地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受ける機会のあった学生では、なかった学生に比べて、「有能」の高齢者イメージが多かった ($p < 0.05$ 、表12)。

7. 「高齢者イメージ」と「メディア等の中の高齢者との関わり」との関連

メディア等において印象に残った高齢者が高齢者イメージに及ぼす影響を検討するために、計7個のメディア等において印象に残った高齢者に関する質問の回答と計16組の高齢者イメージの回答との間でクロス集計を行った。その中で、「尊敬できる－尊敬できな

い」における「尊敬できる」の回答は、「メディア等で敬老に関する番組や内容を見た」76.1%に比べて「メディア等で敬老に関する番組や内容を見なかった」58.8%であり、敬老に関する番組や内容を見た経験を有する学生では、見なかった学生に比べて、「尊敬できる」の高齢者イメージが多かった ($p < 0.05$ 、表13)。同じく「尊敬できる－尊敬できない」における「尊敬できる」の回答は、「メディア等で高齢者の介護に関する内容を見た」70.3%に対して「メディア等で高齢者の介護に関する内容を見なかった」66.7%であり、介護に関する内容を見た経験を有する学生では、見なかった学生に比べて、「尊敬できる」の高齢者イメージが多かった ($p < 0.05$ 、表14)。

表11 地域の高齢者と一緒に楽しく活動した経験とイメージ「経験が多い－少ない」の関連

			経験が多い	どちらでもない	経験が少ない	合計	p 値
地域の高齢者と一緒に楽しく活動できたことがありますか。	あった	n %	97 (95.1)	3 (2.9)	2 (2.0)	102 (100.0)	0.024
	なかった	n %	35 (85.4)	6 (14.6)	0 (0.0)	41 (100.0)	
	合計	n %	132 (92.3)	9 (6.3)	2 (1.4)	143 (100.0)	

表12 地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受けた経験とイメージ「有能－無能」の関連

			有能	どちらでもない	無能	合計	p 値
地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受ける機会がありましたか。	あった	n %	47 (55.3)	34 (40.0)	4 (4.7)	85 (100.0)	0.019
	なかった	n %	19 (32.8)	32 (55.2)	7 (12.1)	58 (100.0)	
	合計	n %	66 (46.2)	66 (46.2)	11 (7.7)	143 (100.0)	

表13 メディア等で敬老に関する番組や内容を見た経験とイメージ「尊敬できる－尊敬できない」の関連

			尊敬できる	どちらでもない	尊敬できない	合計	p 値
メディア等で敬老に関する番組や内容を見たことがありますか。	見た	n %	70 (76.1)	20 (21.7)	2 (2.2)	92 (100.0)	0.023
	見なかった	n %	30 (58.8)	15 (29.4)	6 (11.8)	51 (100.0)	
	合計	n %	100 (69.9)	35 (24.5)	8 (5.6)	143 (100.0)	

表14 メディア等で高齢者の介護に関する内容を見た経験とイメージ「尊敬できる－尊敬できない」の関連

			尊敬できる	どちらでもない	尊敬できない	合計	p 値
メディア等で高齢者の介護に関する内容を見たことがありますか。	見た	n %	90 (70.3)	33 (25.8)	5 (3.9)	128 (100.0)	0.029
	見なかった	n %	10 (66.7)	2 (13.3)	3 (20.0)	15 (100.0)	
	合計	n %	100 (69.9)	35 (24.5)	8 (5.6)	143 (100.0)	

V 考察

1. 自身の祖父母との関わりの経験が高齢者イメージに及ぼす影響

本調査において、高齢者イメージの基となった高齢者について「あなたの祖父母」と回答した学生が60.8%で最も多かったことは、最も身近な高齢者である祖父母から高齢者イメージへの影響を大きく受けていたと考えられる。また、同居経験と高齢者イメージとの間には明確な関連が認められなかったことから、祖父母との居住状態からの影響は大きくなかったと推

察される。一方で、祖父母との連絡頻度が多い学生ほど「有能」と感じる学生が多かったことも事実であり（表9）、実際に連絡を取り合う経験が高齢者への肯定的なイメージ形成に影響していたことが示唆された。このような結果を支持する先行研究として、大塚らが、高齢者のイメージ形成には、祖父母との同居の有無との関連はなく、祖父母との会話頻度とに関連があったと報告している（大塚ら1999）。大谷らは、祖父母との同居や会話が大学生の高齢者イメージの形成に重要であり、さらに祖父母との関わりは肯定的なイメージ

に傾ける可能性がある」と報告している（大谷ら1995）。

さて、本調査の結果において、祖父母と喧嘩したことがある学生よりも、喧嘩したことがない学生の方がより多く高齢者を「尊敬できる」または「幸せ」とイメージしていた（表7、表8）。しかしながら、祖父母と喧嘩したことがある学生でも、「尊敬できない」や「不幸」と回答した学生は極めて少数であったことから、祖父母と喧嘩した経験が高齢者への否定的なイメージを増やしたとは言えない。逆に、喧嘩したことがある学生は、喧嘩できるほど祖父母との会話・接触があったものと捉えることができる。祖父母側の視点からすれば、孫との交流が高齢者の主観的幸福感につながるという報告があるが（山崎ら2004）、若年者にとっては、祖父母と会話したり連絡を取り合っていることが、高齢者への肯定的なイメージ形成の良い機会であることが本研究において示された。

2. 地域の高齢者との関わりの経験が高齢者イメージに及ぼす影響

高齢者イメージの基となった高齢者について「地域の高齢者」と回答した学生は全体の20.3%であり、「あなたの祖父母」ほど多くはなかったものの、一定数の学生にとっては高齢者イメージの基となっていた。また、「地域の高齢者」がイメージの基となった学生では、「あなたの祖父母」がイメージの基となった学生と同等に、約3/4が「尊敬できる」と回答していた（表5）。一方で、「有能」の回答については、「地域の高齢者」がイメージの基となった学生は、「あなたの祖父母」がイメージの基となった学生よりも少なかった（表6）。すなわち、「地域の高齢者」がイメージの基になった学生の場合には、より肯定的なイメージ形成に向けて、まだ改善の余地があると考えられた。

具体的な改善策につながる本調査の結果として、地域の高齢者と一緒に楽しく活動した経験や地域の高齢者から文化的な習い事や講習を受けた経験を有する学生が、それらの経験のない学生よりも、高齢者を「経験が多い」または「有能」と肯定的にイメージしていた（表11、表12）。これまでも、大学生と地域高齢者との間の世代間交流会を実施した研究から、参加学生全員が「高齢者には、歴史があり、経験からのたくましさがある」と回答するなど、高齢者への肯定的イメージ形成に世代間交流は有効であったとする報告されている（岡ら2016）。これらを踏まえると、地域高齢者との間の様々な交流は、若年者の高齢者イメージ

を肯定的に形成する良い機会であると考えられる。なお、地域の高齢者から叱られた経験がある学生よりも、叱られたことがない学生の方がより多く、「経験が多い」と肯定的にイメージしていた（表10）。しかしながら、地域の高齢者から叱られた経験のある学生でも、「経験が少ない」と回答した学生は極めて少数であったことから、少なくとも叱られた経験が否定的なイメージに直結したというわけではない。

3. メディア等の高齢者との関わりの経験が高齢者イメージに与える影響

高齢者イメージの基となった高齢者について「メディア等の中の高齢者」と回答した学生の比率は全体の18.9%で、「あなたの祖父母」ほど多くはなかったものの、一部の学生にとっては「メディア等の中の高齢者」が高齢者イメージの基となっていた。また、「メディア等の中の高齢者」がイメージの基となった学生では、「あなたの祖父母」がイメージの基となった学生に比べて、「尊敬できる」や「有能」の回答が少なかった（表5、表6）。大谷らの研究報告では、大学生の高齢者イメージ形成の基について、「祖父母」からは肯定的なイメージが形成されるが、「近所およびテレビの中の老人」は否定的なイメージに傾けることが示唆されており（大谷ら1995）、それと類似の結果であった。さらに、三輪らは、現在の学生は高齢者と直接的接触の乏しい生活背景をもつことから、過去の体験あるいはマスメディア等を通して認知した情報が高齢者イメージに少なからず影響している可能性と、学生の持つ高齢者への否定的なイメージが形成された背景として現代社会の文化・価値観やマスメディアの影響が考えられると述べている（三輪ら2015）。これらのことから、「メディア等の中の高齢者」がイメージの基になった学生では、より肯定的なイメージ形成のための改善の余地が大きく残されていると言える。

幸い、本調査の結果において、メディア等で敬老に関する番組や内容を見た経験や高齢者の介護に関する内容を見た経験を有する学生が、それらの経験のない学生よりも、高齢者を「尊敬できる」と肯定的にイメージしていた（表13、表14）。この結果から、学生の高齢者イメージを否定的なステレオタイプから、より肯定的なイメージに改善するためには、敬老を含む肯定的な内容がメディア等から若年者向けにより多く発信されることがまず望まれる。しかしながら、学生がメディア等に惑わされない批判的思考力を身につけ

た上で、高齢者関連の肯定的な情報を選択して取得することも大切であるにちがいない。

VI 結論

本研究のアンケート調査から、大学生の多くが自身の「祖父母」を高齢者イメージの基にしていたが、一部の学生は「地域の高齢者」あるいは「メディア等の高齢者」を基にして高齢者イメージを形成していることが明らかになった。「祖父母」との関わりでは連絡頻度の多さ、「地域の高齢者」との関わりでは楽しい活動経験や習い事・講習の経験、「メディア等の高齢者」との関わりでは敬老内容や介護内容を見た経験が、高齢者への肯定的なイメージ形成に関連していた。大学生がより肯定的な高齢者イメージを持って高齢化社会の課題解決に貢献していくためには、身近な祖父母との関わり経験だけでなく、様々な世代間交流の機会を通じて地域あるいはメディア等の高齢者とも関わる経験を積むことが望まれる。

謝辞

本研究にご協力いただきました山口県立大学国際文学部、社会福祉学部と看護栄養学部の1年生と2年生の皆様、さらに各学部の教員の方々に厚くお礼申し上げます。なお、本研究の立案、調査、実施、データ解析ならびに論文執筆について、小嶋、孫、中寄、劉は同等に貢献した。

文献

- 三輪のり子, 金原京子. ゆとり世代の看護学生における高齢者観の特徴: 「普段みたり聞いたりする像」「将来なりたい像」「将来なりたくない像」「自分にとっての存在」の視点から読み解く. 老年看護学 19 (2), 47-57, 2015.
- 水沼国男, 寺沢宗典, 高橋則人, 鶴 浩幸, 松本 勅. 学生の高齢者に対するイメージに関する研究 (第1報). 明治鍼灸医学 32, 25-35, 2003.
- 岡 和子, 太湯好子, 木村麻紀, 澤田和子, 岡本さゆり. 地域高齢者と看護学生及び児童との世代間交流プログラムの実践報告—看護学生の交流会への参加と高齢者観の視点から—. 吉備国際大学研究紀要 26, 51-62, 2016.
- 大谷英子, 松木美津子. 老人イメージと形成要因に関する調査研究 (1) 大学生の老人イメージと生活経験の関連. 日本看護研究学会雑誌 18 (4), 4_25-4_38, 1995.

- 大塚邦子, 正野逸子, 日浦瑞枝, 白井由里子. 看護学生の老人のイメージに関する研究: SD法によるイメージ評価と描画特徴とを中心に. 老年看護学 4 (1), 98-104, 1999.
- 高橋一公. 大学生の老人イメージ測定の試み—自己老人イメージのSD法とテキストマイニングによる分析を通して—. 東京未来大学研究紀要 6, 85-94, 2013.
- 竹田恵子, 太湯好子. 中学生の老人イメージとその形成に関連する要因. 川崎医療福祉学会誌 12, 161-167, 2002.
- 山崎美佐子, 角間陽子, 草野篤子. 異世代間におけるネットワークの可能性—祖父母と孫の交流関係から. 信州大学教育学部紀要 112, 99-110, 2004.